Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 21第18号
2021年（令和三年） 8月6日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

7/22～7/28のNYMEX・WTI先物市場は、71.65～72.39ドルの範囲で推移した。

7月29日は、前日の米国石油在庫週報発表で、原油もガソリンも市場予想を上回る取り崩しで、堅調な石油需要を好感し、続伸した。対ユーロでのドル安による原油先物の割安感、米国株式市場の好調も、値上がり要因となった。9月限の終値は前日比1.23ドル高の73.62ドル。

週末30日は、引き続き、石油需給の引き締まり感を背景に、3日続伸した。新型コロナの変異種による感染再拡大も、石油需要には大きな影響は出ないとする見方が主流だった。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比2基減の385基。8月限の終値は前日比0.33ドル高の73.95ドル。

週明け8月2日は、中国の製造業景況指数が3か月連続で悪化、世界経済の成長を支えてきた中国の経済成長に懸念が生じ、米国の景況指数も前月から悪化したことで、4営業日ぶりに大幅反落した。さらに、外電報道で、7月のOPEC産油量が、サウジの増産を中心に、前月比61万バレル増の日量2670万バレルと、昨年4月以来の1年3か月ぶりの高水準となったことも、需給緩和を意識させた。9月限の終値は前日比2.69ドル安の71.26ドル。

3日は、前日に続き、感染再拡大による景気減速懸念から、続落した。ニューヨークでは、レストラン等の屋内施設使用にワクチン接種の証明提示の義務付け方針を打ち出されるなど、感染再拡大が懸念されている。米国株式市場の下げも値下がり要因。ただ、明日発表の米国在庫統計で取り崩しが予想されていることが、下支え要因となった。9月限の終値は前日比0.70ドル安の70.56ドル。

4日は、同日発表の米国エネルギー情報局（EIA）の米国石油在庫統計で、原油在庫が予想外の積み増しとなり、コロナ変異種によるの感染再拡大の動きと相まって、先行きの需給緩和が懸念されるとして、3日続落した。9月限の終値は前日比2.41ドル安の68.15ドル。

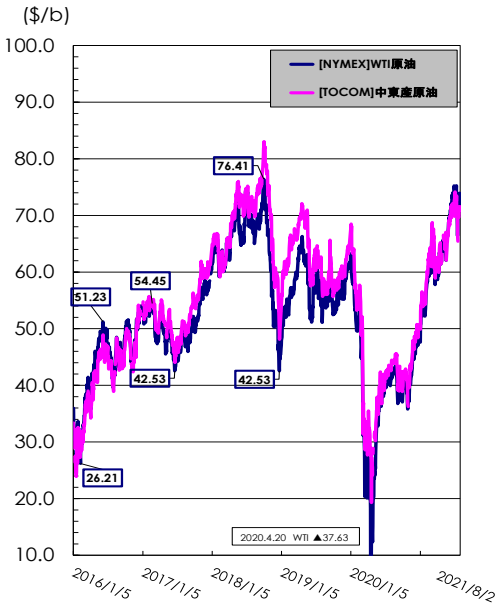
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）は、7月22日～28日の間71.90～73.40ドルの範囲で推移した。7月29日73.60ドル、30日73.90ドル、8月2日72.90ドル、3日71.00ドル、4日70.90ドルと推移した。

為替は7月22日～28日の間109.86～110.54円の範囲で推移した。7月29日109.73円、30日109.49円、8月2日109.65円、3日109.33円、4日109.07円で推移した。

財務省が8月6日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、50,998円/klで、前旬比3,771円高、ドル建て73.18ドルで前旬比5.26ドル高、為替レートは1ドル/110.79円。

そのような中で、8月2日時点の小売価格は、ガソリンが前週（7月26日）比0.2円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同横ばい（18㍑ベース）だった。ガソリンは9週ぶりの値下がり、軽油も9週ぶりの値下がり、灯油は35週ぶりに値上がりが止まった。この週（8月第1週）の原油コストは大きく値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の引き上げとなった模様。

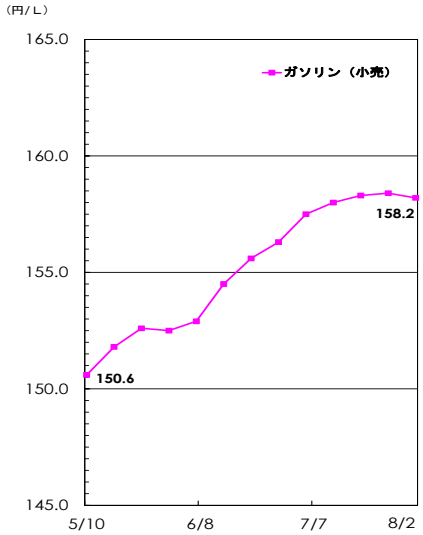
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	7/25 ～ 7/31	2,745	▲ 151	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	71.3	▲ 3.9	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	7/31	10,260	▼ -909	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	8/2	71.56	▲ 1.88	▲ 29.0
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	8/2	71.26	▼ -0.65	▲ 30.3
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	7月中旬	73.18	▲ 5.26	▲ 40.40
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	50,998	▲ 3,771	▲ 28,888
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	110.79	▼ -0.26	▼ -3.57
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	8/2	110.65	▲ 0.89	▼ -3.52



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/25 ～ 7/31	874	▼ -20	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	919	▼ -58	▲ –
	輸出		〃	24	▼ -1	▲ –
	在庫		7/31	2,030	▼ -70	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	7/27 ～ 8/2	67.1	➡ 0.0	▲ 24.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/27 ～ 8/2	68.9	▲ 4.4	▲ 27.9
		(TOCOM/中部)	8/2	65.3	▲ 0.1	▲ 23.3
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/2	158.2	▼ -0.2	▲ 23.7

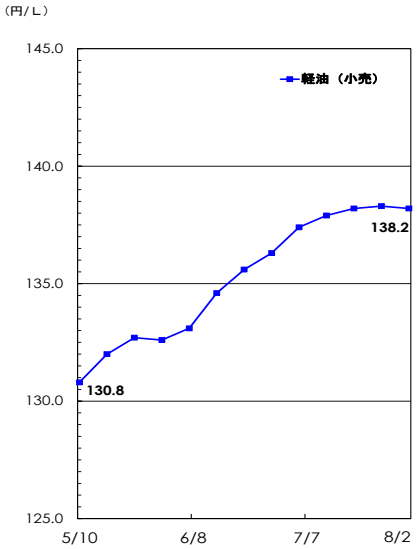
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

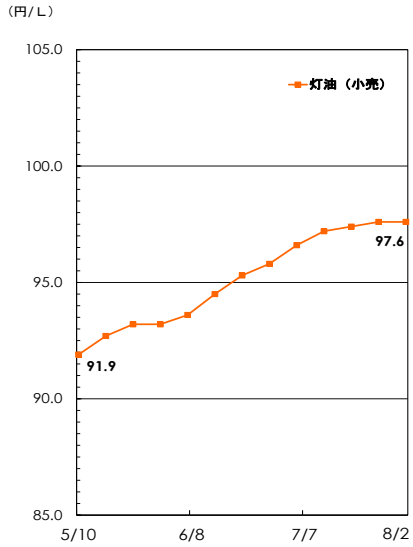
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/25 ～ 7/31	702	▲ 65	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	606	▲ 113	▲ –
	輸出		〃	83	▼ -66	▲ –
	在庫		7/31	1,794	▲ 12	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	7/27 ～ 8/2	68.1	▼ -0.4	▲ 22.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/27 ～ 8/2	68.7	▲ 2.4	▲ 21.5
		(TOCOM/中部)	8/2	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/2	138.2	▼ -0.1	▲ 23.2

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/25 ～ 7/31	141	▼ -41	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	47	▲ 9	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	▼ –
	在庫		7/31	2,001	▲ 94	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	7/27 ～ 8/2	67.9	▼ -0.1	▲ 21.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/27 ～ 8/2	62.0	▲ 2.2	▲ 19.1
		(TOCOM/中部)	8/2	64.8	▼ -0.2	▲ 19.8
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/2	97.6	➡ 0.0	▲ 17.2



■ 関連情報

1　海外/原油

8月4日のNYMEXのWTI先物原油は、石油需要の先行きに対する悲観的観測から、大幅に3日続落、70ドルを切り、7月20日以来約2週間ぶりの安値を記録した。同日発表の米国エネルギー情報局（EIA）の米国石油在庫統計で、ガソリン在庫は市場予想通り減少したものの、原油在庫は前週末比360万バレル増と市場予想に反する積み増しで、米国など世界各国における変異種による感染再拡大の動きと相まって、石油需給の緩みを懸念させた。また、米株価の急落、米国雇用統計の予想を下回る低調さも、下押し要因となった。なお、ホルムズ海峡付近オマーン沖でのタンカー攻撃事件は、大きな影響を与えなかった。9月限の終値は前日比2.41ドル安の68.15ドル、10月限の終値は2.24ドル安の67.79ドル。

EIAによると、8月2日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.3セント値上がりの1ガロン3.159ドル（92.2円/㍑）、ディーゼルは同2.5セント値上がりの3.367ドル（98.3円/㍑）となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりとなった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年7月25日～7月31日に休止したトッパー能力は39.1万バレル/日で、前週に対して9.3万バレル/日減少した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は274.5万klと、前週に比べ15.1万kl増加。前年に対しては48.5万klの増加。トッパー稼働率は71.3%と前週に対して3.9ポイントの増加、前年に対しては13.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.2%減、ジェット/1.9%増、灯油/22.3%減、軽油/10.2%増、A重油/10.2%減、C重油/3.9%増。今週のC重油の輸入は3.4万kl（前週比3.0万kl増）。軽油の輸出は8.3万kl（前週比6.6万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でガソリンが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は91.9万kl（対前週5.9%減）と2週振りで減少した。ジェット7.4万kl（対前週31.3%増）、灯油4.7万kl（対前週23.0%増）、軽油60.6万kl（対前週23.1%増）、A重油16.5万kl（対前週39.9%増）、C重油20.6万kl（対前週0.4%増）。

（単位：千KL）

	今週 (7/25 ~ 7/31)	前週 (7/18 ~ 7/24)	前週比	
ガソリン	919	977	▼ -58	(-6%)
ジェット燃料	74	57	▲ 17	(30%)
灯油	47	38	▲ 9	(24%)
軽油	606	493	▲ 113	(23%)
A重油	165	118	▲ 47	(40%)
C重油	206	206	➡ 0	(0%)
合　計	2,017	1,889	▲ 128	(7%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

7月31日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは203.0万kl、前週差7.0万kl減。前年に対しては37.0万kl多い。

灯油は200.1万kl、前週差9.4万kl増。前年に対しては9.6万kl多い。

軽油は179.4万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては17.3万kl多い。

A重油は71.4万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては2.1万kl多い。

C重油は188.8万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては5.6万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (7/31)	前週 (7/24)	前週比	
ガソリン	2,030	2,100	▼ -70	(-3%)
ジェット燃料	740	849	▼ -109	(-13%)
灯油	2,001	1,907	▲ 94	(5%)
軽油	1,794	1,782	▲ 12	(1%)
A重油	714	759	▼ -45	(-6%)
C重油	1,888	1,822	▲ 66	(4%)
合　計	9,167	9,219	▼ -52	(-0.6%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

7月27日～8月2日の指標原油価格は前週（7月20日～26日）比で値上がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週（8/5～8/11）の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

7月27日～8月2日の製品スポット市況は、7月20日～26日平均と比べ、先物の全取引と海上の灯油が値上がり、陸上のガソリンが横ばいだったが、その他の取引・油種で値下がりした。

直近（7/27～8/2）の陸上スポット価格平均値（千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格）は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。直近週（7/27～8/2）において、ガソリンは120～121円台でわずかに値上がり、灯油は67～68円台でわずかに値上がり、軽油は67～68円台で値下がり後回復しわずかに値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（7/27～8/2）に、前週比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は1.2円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間（7/27～8/2）に、ガソリンは121～122円台でわずかに値下がり、灯油は65円台でほぼ横ばい、軽油は68～69円台で値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは4.4円の値上がり、灯油は2.2円の値上がり、軽油は2.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間（7/27～8/2）に、ガソリン121～123円台で大きく値上がり、灯油61～62円台でわずかに値下がり、軽油68～69円台で値上がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(7/27 ~ 8/2)	前週　(7/20 ~ 7/26)	前週比
スポット価格	レギュラー	67.1	67.1	➡ 0.0
	灯油	67.9	68.0	▼ -0.1
	軽油	68.1	68.5	▼ -0.4

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(7/27 ~ 8/2)	前週　(7/20 ~ 7/26)	前週比
先物価格	レギュラー	68.9	64.5	▲ 4.4
	灯油	62.0	59.8	▲ 2.2
	軽油	68.7	66.3	▲ 2.4

※上記価格は税抜き価格

参考値　（7/27～8/2実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	➡ 0.0	▲ 4.4	▲ 2.2
灯油	▼ -0.1	▲ 2.2	▲ 1.1
軽油	▼ -0.4	▲ 2.4	▲ 1.0
A重油	▼ -0.8		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

8月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（7月26日）比0.2円安の158.2円、軽油も同0.1円安の138.2円、灯油は18㍑ベースで同横ばいの1,756円（1㍑ベースでは同横ばいの97.6円）。ガソリンは9週ぶりの値下がり、軽油も9週ぶりの値下がり、灯油は35週ぶりに値上がりが止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは16府県、横ばいは3県、値下がりは28都道県だった。全国最安値は152.4円の徳島県（同0.1円安）、その次に安かったのは、152.9円の埼玉県（同0.1円高）、他方、最高値は168.3円の長崎県（同0.1円高）だった。最も値上がりしたのは同1.0円高の沖縄県（165.0円）で、横ばいは広島県など3県、最も値下がりしたのは同1.3円安の東京都（160.2円）だった。

今週（7月27日～8月2日）は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週（8月5日～8月11日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の値上げとなった模様。次回調査時（8月10日）のガソリンの小売価格は小幅な値上がりが予想される。

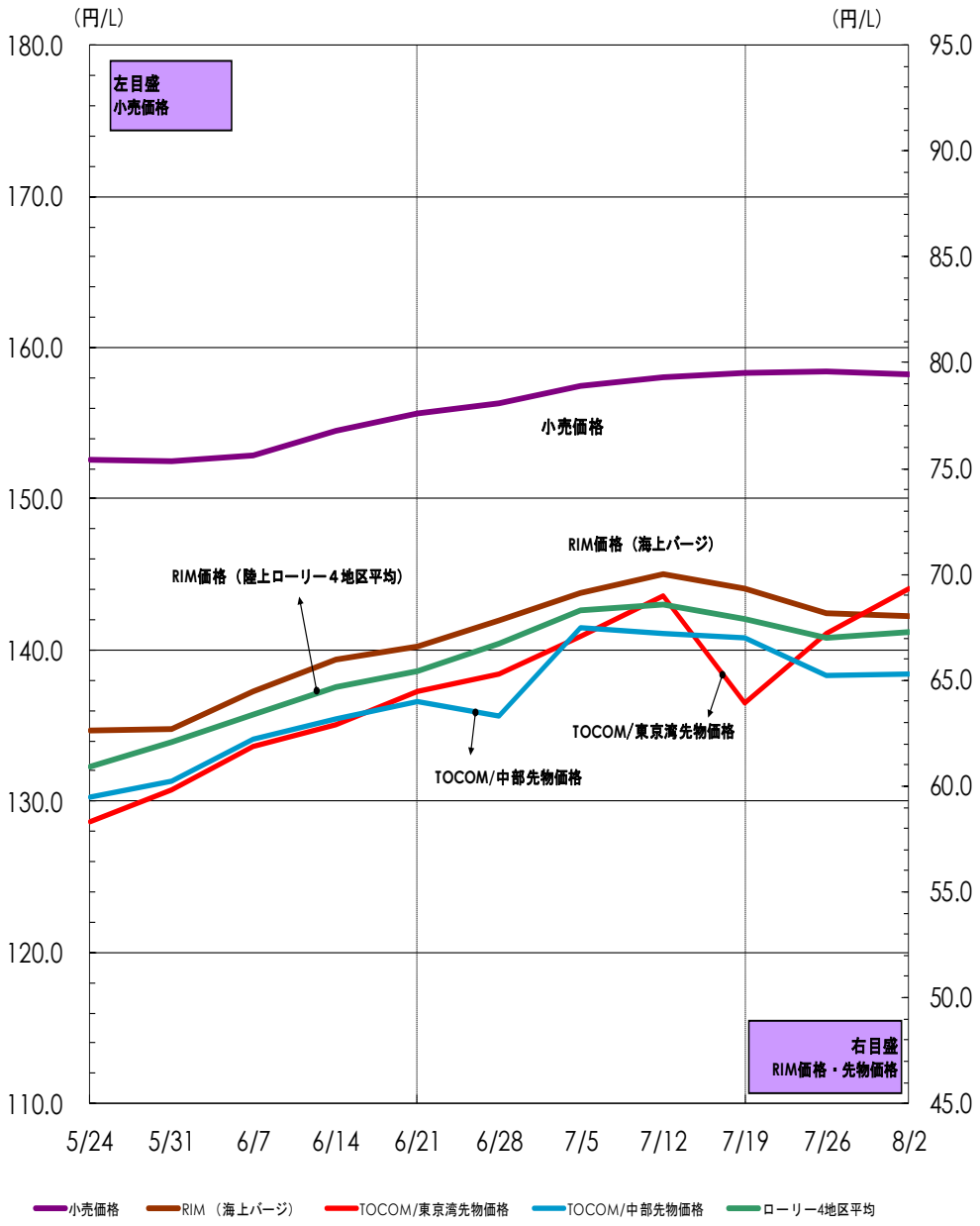
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(8/2)	前週　(7/26)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	158.2	158.4	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	97.6	97.6	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	138.2	138.3	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/5/24　～　2021/8/2)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2021第19号）の公表は、8/20（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和2年3月末現在）は、8月26日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。